



地域医療連携だより

# きずな



## 院内震災訓練を開催しました

令和5年12月8日(金)に「院内震災訓練」を開催しました。

平日午後2時に神奈川県西部で震度6弱の地震が発生したことを想定し、発災直後の災害対策本部の立ち上げから情報収集までの流れの確認のほか、院内外での情報伝達訓練、病床を効率的に稼働するためのベッドコントロール訓練、患者受入を想定した机上のトリアージ訓練を行いました。

この内、情報伝達訓練では、災害によって院内の通信機器が使えなくなったことを想定し、災害対策本部とトリアージエリア間においてトランシーバーを用いた患者情報の共有が行われたほか、近隣の医療機関（足柄上病院、山近記念総合病院、小澤病院）にご協力いただき、災害時における医療機関同士の情報交換について、やり取りの流れや今後の課題について確認をしました。

さらに、足柄上病院との合同訓練では、神奈川県から貸与されている「閉域スマートフォン」※1を用い、チャット機能やビデオ通話を活用した情報交換を行いました。

今後も県西地区の「災害拠点病院」としての役割を果たせるよう、院内連携の強化、周辺医療機関との円滑な連携体制の確立に努めて参ります。

※1 災害時における県及び市町村、防災関係機関の連絡手段として神奈川県から貸与されているスマートフォン。一斉指令の確認やチャット・ビデオ通話等が出来る。



(写真) 災害対策本部で訓練の流れを確認する様子



(写真) トリアージエリアでトランシーバーを使用して本部と情報共有を行う様子

## 災害拠点病院とは

(当院HP) DMA T部隊の活動について



平成8年に厚労省の発令によって定められた「災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関」のことです。

当院は神奈川県西二次医療圏において、唯一の救命救急センター併設の「災害拠点病院」に指定されています。

また、当院には「DMA T」（災害医療における専門的な訓練を受けた職員で編成される災害医療派遣チーム）に所属する職員も在籍しており、先般の能登半島地震に伴い、2部隊のDMA Tチームが被災地での支援活動に参加しました。

詳細はQRコード、もしくは当院ホームページ「救命救急センター・災害拠点病院」をご覧ください。

(写真) 被災地に向けて出発する当院のDMA T隊員





# 令和5年度 第1回救急搬送症例検討会を開催しました

11月15日（水）におだわら総合医療福祉会館で「令和5年度 第1回救急搬送症例検討会」を開催しました。

本検討会は県西地域で唯一“救命救急センター”を有する当院と近隣消防機関との連携強化、救急隊員の方々のスキル向上を目的として開催し、当日は小田原市消防、箱根町消防、湯河原町消防の約60名の救急隊員に参加していただきました。

なお、今回は「脳卒中・頭部外傷などの脳疾患」をテーマとして取り上げ、当院救急科部長の飯塚医師および脳神経外科科長の鈴木医師が講演を行いました。



<講演内容>

## ①「救急医師の視点から見た脳卒中救急搬送症例について」

講師：救急科部長 飯塚医師

## ②「脳疾患症例に係る救急搬送時の注意点について」

講師：脳神経外科科長 鈴木医師

参加者からは「脳疾患症例の対応時のポイントがよく理解できた。」「搬送時に救急隊員が医師に伝えるべき事項が確認できた。」などの感想をいただきました。

今後も定期的な開催を企画し、病院職員と救急隊員との連携を強化して参ります。

当院の緊急受診時の連絡先および脳神経外科ホットライン※2につきましては、下記をご確認ください。

## ■今年度の救急車受入件数について ※2 当院と近隣の救急隊で利用している専用電話回線

昨年度当院の救急車受入件数は過去最多でしたが、今年度についても昨年度と同水準の件数で推移しています。

救急車 受入件数（件）	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	5,209（434）	6,675（556）	5,083（564）

※令和5年度は12月までの実績であり（）内は月平均件数

## ■当院の緊急受診連絡先（医療機関用）

至急受診が必要な場合は、貴院の医師から当院の医師宛に直接お電話をください。

# TEL：0465-34-3175（代表）

※夜間・休日につきましては、救急科医師またはウォークイン担当医が対応します。循環器内科、外科、脳神経外科は24時間オンコール体制で手術対応します。

## ■脳神経外科・脳卒中ホットライン

「9月号きずな」☞



※ホットラインとは、**当院と近隣の救急隊で利用している専用電話回線**のことです。

→ 24時間365日（夜間・休日を問わず）「脳卒中患者さんの受入」「緊急開頭手術」「t-PA静注療法・カテーテルによる血栓回収療法」に対応します。

（「9月号きずな」でも脳神経外科の活動を取り上げております。よろしければご確認ください。）